



即時転送

即時転送機能を使用すると、ボイスメールシステムへコールを即時に転送できます。コールが転送されると、その回線で新規コールを送受信できるようになります。

即時転送は CTI アプリケーションでは使用できませんが、CTI 機能のボイスメール転送は、即時転送と同じ機能を実行します。ただし、実行されるのは、サードパーティの開発者が開発した CTI アプリケーション用の機能です。

即時転送機能にアクセスするには、[即時転送] ソフトキーを使用します。このソフトキーは、Cisco Unified CallManager の管理ページの [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウを使用して設定します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified CallManager システム内の電話機に割り当てられます。

この章では、即時転送に関する次の情報を提供します。

- [即時転送の概要 \(P.12-2\)](#)
- [即時転送のシステム要件 \(P.12-3\)](#)
- [Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが False に設定されている場合の即時転送シナリオ \(P.12-6\)](#)
- [即時転送のインストールとアクティブ化 \(P.12-10\)](#)
- [即時転送の設定 \(P.12-10\)](#)
- [即時転送用のサービス パラメータの設定 \(P.12-11\)](#)
- [関連項目 \(P.12-12\)](#)

即時転送の概要

Cisco Unified CallManager の補足サービスである即時転送は、システム内で広く使用できます。即時転送の [即時転送] ソフトキーは、ユーザがログインしなくても電話機で使用できます。

従来の即時転送では、即時転送機能呼び出した側のボイスメールボックスにコールを転送できません。拡張された即時転送では、即時転送機能呼び出した側のボイスメールボックスまたは元の着信側のボイスメールボックスにコールを転送できます。

提供、保留、あるいはアクティブ状態の着信コールを転送できます。また、アクティブまたは保留状態の発信コールを転送できます。転送される側には、コールの転送先のボイスメールシステムのグリーティングが再生されます。

拡張された即時転送モードが着信コールについてアクティブになっている場合、コールを受けたユーザは、即時転送呼び出して、自分のボイスメールボックスまたは元の着信側のボイスメールボックスにコールを転送できます。機能呼び出したユーザが [即時転送] ソフトキーを押すと、呼び出し側ユーザの電話画面に元の着信側と呼び出し側ユーザの両方が表示されます。ユーザがこの 2 つの名前のいずれかを選択すると、コールは選択された側のボイスメールボックスに転送されません。



(注)

着信コールを転送するためにユーザが即時転送機能呼び出したときに、元の着信側を選択することが可能なのは、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されている場合だけです。P.12-11 の「[即時転送用のサービス パラメータの設定](#)」を参照してください。

即時転送は、ボイスメール転送機能と共存できます。

即時転送のシステム要件

即時転送が機能するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified CallManager 5.0 以降

次の SCCP 電話機および SIP 電話機は、Cisco Unified CallManager ソフトキー テンプレートで設定された Immediate Divert (iDivert) ソフトキーによる即時転送をサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone (モデル 7905、7911、7912、7920、7940、7941、7960、7961、7970、7971)

次のボイスメール システムは即時転送をサポートしています。

- Unity などの Skinny プロトコルを使用するボイスメール システム
- Octel などの SMDI を使用するボイスメール システム

即時転送のコール処理要件

次の項では、即時転送のコール処理要件について説明します。

- [ソフトキー要件 \(P.12-3\)](#)
- [着信コールの要件 \(P.12-4\)](#)
- [発信コールの要件 \(P.12-4\)](#)

ソフトキー要件

Immediate Divert (iDivert) ソフトキーはソフトキー テンプレートで自動的に設定されないので、Cisco Unified CallManager の管理ページの [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウを使用して、使用可能な任意のソフトキー テンプレートで Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを設定します。Immediate Divert (iDivert) ソフトキーは、次のコール状態で設定できます。

- 接続時
- 保留
- 呼び出し



(注)

ソフトキー テンプレートでの呼び出しの状態は、電話機のコール状態では提供状態を表します。

Cisco Unified CallManager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを含むソフトキー テンプレートを電話機に割り当てます。

ソフトキー テンプレートの設定については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」を参照してください。電話機へのソフトキー テンプレートの割り当てについては、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」を参照してください。

着信コールの要件

次のリストに、即時転送がサポートするコール転送チェーン内の着信側のタイプを示します。

- ユーザ A がユーザ B に電話をかける。
- ユーザ B がユーザ C に転送する。
- ユーザ C がユーザ D に転送する。

ユーザ B は元々の着信側です。ユーザ C は最後の転送側です。ユーザ D は最後の着信側です。

即時転送は、次の着信コール状態をサポートします。

- 提供
- 保留
- アクティブ

クラスタ全体のサービス パラメータ `Use Legacy Immediate Divert` が [True] に設定されている場合、着信側が [即転送] ソフトキーを押すと、即時転送によって、この着信側に関連付けられているボイスメール メールボックスに着信コールが転送されます。着信側のボイスメール メールボックスは、着信側の電話番号に割り当てられているボイスメール プロファイルによって管理できます。

クラスタ全体のサービス パラメータ `Use Legacy Immediate Divert` が [False] に設定されている場合に、着信側が [即転送] ソフトキーを押すと、即時転送によって、着信側は宛先のボイスメール ボックスを選択できます。転送済みのコールがある場合は、着信側の画面に表示されます (P.12-7 の「インタラクション」を参照)。着信側は、元の着信側のボイスメール メールボックスまたは着信側に関連付けられているボイスメール メールボックスにコールを転送できます。元の着信側または着信側のボイスメール メールボックスは、関連付けられた電話番号に割り当てられているボイスメール プロファイルによって管理できます。

ボイスメールについては、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド*』の「Cisco ボイスメール パイロットの設定」および「ボイスメール プロファイルの設定」と、『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「ボイスメールの Cisco Unified CallManager への接続性」を参照してください。

発信コールの要件

即時転送は、次の発信コール状態をサポートします。

- 保留
- アクティブ

発信側が [即転送] ソフトキーを押すと、即時転送によって、この発信側に関連付けられているボイスメール メールボックスに発信コールが転送されます。発信側のボイスメール メールボックスは、発信側の電話番号に割り当てられているボイスメール プロファイルを使用して管理できます。

ボイスメールについては、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド*』の「Cisco ボイスメール パイロットの設定」および「ボイスメール プロファイルの設定」と、『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「ボイスメールの Cisco Unified CallManager への接続性」を参照してください。

即時転送の電話機表示メッセージ

即時転送によって IP Phone に次のメッセージが表示され、即時転送アクションのステータスが示されます。

- 「キーがアクティブではありません」: [即転送] を押したユーザのボイスメール プロファイルにボイスメールパイロットがありません。
- 「一時エラー発生」: ボイスメール システムが機能しないか、ネットワークの問題が存在します。
- 「話し中」: このメッセージは、ボイスメール システムが通話中であることを示します。

即時転送の使用

次のシナリオでは、即時転送機能の使用例を示します。シナリオ 1～6 は、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されていることを前提にしています。シナリオ 7～8 は、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されていることを前提にしています。シナリオ 9 は、クラスタ全体のサービス パラメータの Use Legacy Immediate Divert と Auto Call Pickup Enabled が [False] に設定されていることを前提にしています。

Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが True に設定されている場合の即時転送シナリオ

シナリオ 1: 着信側が [即転送] ソフトキーを押した場合

1. ユーザ A がマネージャ A に電話をかけます。
2. マネージャ A が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
3. 即時転送によって、マネージャ A のボイスメール メールボックスにコールが転送されます。
4. ユーザ A にマネージャ A のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 2: 元の着信側のボイスメール プロファイルにボイスメールパイロットがない場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. コールがアシスタント B の個人回線に転送されます。
3. アシスタント B が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
4. 即時転送によって、アシスタント B のボイスメール メールボックスにコールが転送されます。ユーザ B ではボイスメールパイロット番号が設定されていませんが、アシスタント B では設定されています。
5. ユーザ A にアシスタント B のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 3: マネージャ A がマネージャ B へコールを転送する場合

1. ユーザ A がマネージャ A に電話をかけます。
2. マネージャ A の回線はマネージャ B へ転送されます。
3. マネージャ B が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
4. 即時転送によって、マネージャ B のボイスメール メールボックスにコールが転送されます。
5. ユーザ A にマネージャ B のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 4: ボイスメール プロファイルで定義されたボイスメールポートが通話中の場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. ユーザ B が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
3. ボイスメールポートが通話中なので、即時転送によってボイスメール メールボックスへコールを転送することができません。

4. ユーザ B の IP Phone に「話し中」というメッセージが表示されます。
5. 元のコールは提供状態のままです。

シナリオ 5：発信側がハントパイロット番号を使用するコールセンターに電話をかける場合

1. ユーザ A がハントリスト A に電話をかけます。
2. ハントリスト A のメンバーが [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。このソフトキーはグレー表示されています。
3. ハントリスト A にはボイスメールプロファイルがないので、即時転送によってボイスメールメールボックスへコールを転送することができません。
4. ハントリスト A のメンバーの IP Phone に「キーがアクティブではありません」というメッセージが表示されます。

シナリオ 6：発信側 B が別の Cisco Unified CallManager クラスタ上のユーザ C へコールを転送する場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. ユーザ B が別の Cisco Unified CallManager クラスタ上のユーザ C へコールを転送します。
3. ユーザ C が着信コールに応答します。
4. ユーザ C が [即転送] ソフトキーを押します。
5. ユーザ A にユーザ C のボイスメールメールボックスグリーティングが再生されます。

Use Legacy Immediate Divert サービスパラメータが False に設定されている場合の即時転送シナリオ

シナリオ 7：発信側 A がユーザ B に電話をかけ、ユーザ B がコールをユーザ C に転送する場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. ユーザ B の電話機からユーザ C にコールが転送されます。
3. ユーザ C に着信コールが表示され、ユーザ C が [即転送] ソフトキーを押します。
4. ユーザ C が [即転送] ソフトキーを押します。
5. ユーザ C の電話機に、転送先として、ユーザ B のボイスメールメールボックスまたはユーザ C のボイスメールメールボックスを選択するための画面が表示されます。
6. ユーザ C がユーザ B のボイスメールメールボックスを選択します。
7. ユーザ A にユーザ B のボイスメールメールボックスグリーティングが再生されます。

シナリオ 8：発信側がハントパイロット番号を使用するコールセンターに電話をかける場合

1. ユーザ A がハントリスト A に電話をかけます。
2. ハントリスト A のメンバーが [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
3. 即時転送によって、即時転送機能呼び出したハントリスト A のメンバーのボイスメールメールボックスにコールが転送されます。
4. ユーザ A にハントリスト A のメンバーのボイスメールメールボックスグリーティングが再生されます。

シナリオ 9：クラスタ全体のサービスパラメータ Auto Call Pickup Enabled が [False] に設定されていて、ユーザがコールピックアップグループに属している場合

1. ユーザ B、ユーザ C、ユーザ D が同じコールピックアップグループに属しています。
2. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
3. ユーザ B の IP Phone の呼び出し音が鳴りますが、ユーザ B はコールに応答しません。
4. ユーザ C がコールピックアップを使用してコールに応答します。

5. ユーザ C が、アラート、接続中、または保留中のいずれかの状態で [即転送] ソフトキーを押すと、ユーザ C の IP Phone に選択肢が表示されます。ユーザ C は、即時転送で元の着信側のボイスメール メールボックス (ユーザ B) にコールを転送する、または即時転送で最後の着信側のボイスメール メールボックス (ユーザ C) にコールを転送する、という 2 つのオプションのいずれかを選択できます。



(注)

クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定され、クラスタ全体のサービス パラメータ Auto Call Pickup Enabled が [True] に設定されている場合、コールピックアップグループのユーザがコールピックアップを使用してコールに応答すると、[即転送] ソフトキーを押しても、IP Phone には選択肢が何も表示されません。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、即時転送におけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- [インタラクション \(P.12-7\)](#)
- [制限事項 \(P.12-8\)](#)

インタラクション

次の各項では、即時転送が Cisco Unified CallManager アプリケーションおよびコール処理とどのように通信するかを説明します。

- [Multilevel Precedence and Preemption \(MLPP\) \(P.12-7\)](#)
- [コールパークのサービス パラメータの設定 \(P.10-9\)](#)
- [コール転送 \(P.12-7\)](#)
- [Call Detail Records \(CDR\) \(P.12-8\)](#)
- [会議 \(P.12-8\)](#)
- [ハントリスト \(P.12-8\)](#)

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)

即時転送と MLPP の間では、次の通信が行われます。

- 即時転送は、コールのタイプ (たとえば、優先コール) に関係なく、ボイスメール メールボックスへコールを転送します。
- Alternate Party Diversion (コールの優先順位) がアクティブになっている場合は、Call Forward No Answer (CFNA) が非アクティブになります。

コール転送

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで無応答時転送を設定しない場合、コール転送はクラスタ全体の CFNA タイマー サービス パラメータ Forward No Answer Timer を使用します。ユーザがコールの転送と同時に [即転送] ソフトキーを押すと、コールはボイスメール メールボックスではなく、割り当てられたコール転送電話番号に転送されます (タイマーが短すぎたため)。この問題を解決するには、CFNA タイマー サービス パラメータを十分な時間に設定します (たとえば、60 秒)。即時転送の画面が即時転送の呼び出し側に表示されている場合、CFNA タイマーの期限が切れると、コールは次のユーザに転送されます。

Call Detail Records (CDR)

即時転送は、CDR の「Onbehalfof」のフィールド（たとえば、joinOnbehalfof、lastRedirectRediectOnBehalfof など）で即時転送コード番号を使用します。

会議

会議参加者が [即転送] ソフトキーを押すと、残りの会議参加者が即時転送の発信者のボイスメール メールボックス グリーティングを受信します。会議のタイプには、Ad Hoc、ミーティング、割り込み、C 割り込み、および参加があります。

ハント リスト

即時転送は、回線グループのメンバーである DN に対して次のように機能します。

- [即転送] ソフトキーが有効であることを確認します。
- クラスタ全体のパラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されている場合、ハント リスト パイロットから（ハンティング アルゴリズムの一部として）電話機に直接着信するコールに対して、[即転送] ソフトキーはグレー表示になります。[False] に設定されている場合は、グレー表示になりません。
- クラスタ全体のパラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] または [False] に設定されている場合、ハント リスト パイロットから（ハンティング アルゴリズムの一部として）電話機に直接着信しないコールに対して、[即転送] ソフトキーはグレー表示になりません（これには、ハント リスト パイロットにコールが発信された場合、ハント リストが期限切れになった場合、および DN へのディスポジション転送後にコールが発信され、この DN 自体がハントグループのメンバーであった場合が含まれます。これは、ハント リスト パイロットを通じてハントグループのメンバーに間接的にコールされるケースを表します）。

制限事項

即時転送には、次の制限事項があります。

- 即時転送は、クラスタ全体のサービス パラメータの Use Legacy Immediate Divert および Allow QSIG During iDivert の設定値に応じて、QSIG デバイス（QSIG 対応 H-323 デバイス、MGCP PRI QSIG T1 ゲートウェイ、および MGCP PRI QSIG E1 ゲートウェイ）をサポートします。詳細については、P.12-11 の「即時転送用のサービス パラメータの設定」を参照してください。QSIG トランク経由で即時転送が許可されている場合は、次のガイドラインに従います。ボイスメール システムと QSIG を統合している場合は、ボイスメール パイロットまたはボイスメール マスクのいずれかまたは両方を含むボイスメール プロファイルでは、[これをシステムのデフォルトボイスメールプロファイルに設定 (Make this the default Voice Mail Profile for the System)] チェックボックスをオフのままにします。デフォルトの [ボイスメールプロファイル] 設定が常に [ボイスメールなし] に設定されていることを確認してください。
- Call Forward All (CFA) と Call Forward Busy (CFB) がアクティブになっている場合、システムは即時転送をサポートしません（CFA と CFB は即時転送よりも優先されます）。
- ローカル /SCCP 接続を介してボイスメール システムに到達すると、即時転送はボイスメール ポートが話し中の状態にあることを検出できます（コールは、話し中のボイスメール システムには転送できませんが、元のコールは維持されます。即時転送が呼び出された電話機の画面に「話し中」と表示され、コールが転送されなかったことが通知されます）。ボイスメール システムに QSIG トランクまたは SIP トランク経由で到達する場合、即時転送は検出できますが、コールは維持されません。クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert が [True] に設定されているか、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されている場合、即時転送は、QSIG トランクや SIP トランク経由で到達可能なボイスメール システムへのアクセスをサポートします。クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert が [False] に設定されていて、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されている場合、即時転送は、QSIG トランクや

SIP トランクを経由したボイスメール システムへのアクセスをサポートしません。即時転送は通話中のボイスメール ポートへコールを転送できませんが、ボイスメール ポートをルートまたはハント リストのメンバーにすることによって、通話中のポートのシナリオを減らすことができます。

- クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されていて、コールが直接コールであれば、ハント リストのメンバーは即時転送を呼び出すことができます。回線グループのメンバーとして到達した場合は、即時転送を呼び出せません。IP Phone にメッセージ「キーがアクティブではありません」が表示されます。
- Cisco Unified CallManager がダウンした場合は、Cisco Unified CallManager がダウンする前に転送先とボイスメール システムの間にメディア パスが確立されていない限り、ユーザはボイスメールを保持できません。
- システムは、迷惑呼 ID 機能と即時転送機能を同時にはサポートしません。
- CTI アプリケーションでは即時転送を使用できません（アプリケーションはボイスメール転送を使用します）。
- IP Phone で即時転送テキスト表示のタイマーを制御するには、Call Park Display Timer サービス パラメータを使用します。このサービス パラメータが変更されると、即時転送のテキスト表示タイマーも変更されます。
- MLPP の使用の制限事項については、P.12-7 の「[Multilevel Precedence and Preemption \(MLPP\)](#)」を参照してください。
- [即転送] ソフトキーが押された場合、無応答時転送のタイムアウトとの関係で競合条件が発生します。たとえば、マネージャが無応答時転送のタイムアウトの直後に [即転送] ソフトキーを押すと、コール転送によって、事前設定された電話番号へコールが転送されます。ただし、マネージャが無応答時転送のタイムアウトの前に [即転送] ソフトキーを押した場合は、即時転送によってマネージャのボイスメール メールボックスへコールが転送されます。
- 発信側と着信側は、両方が同時に [即転送] ソフトキーを押すことによって、それぞれのボイスメール メールボックスへコールを転送できます。発信側のボイスメール メールボックスには、着信側の発信グリーティングの一部が含まれます。同様に、着信側のボイスメール メールボックスには、発信側の発信グリーティングの一部が含まれます。
- 会議の参加者が [即転送] ソフトキーを押すと、残りのすべての参加者が、[即転送] を押した参加者の発信グリーティングを受信します。会議のタイプには、ミーティング、Ad Hoc、C 割り込み、および参加があります。
- コールに対する最後のアクションが、自動ピックアップ、コールの転送、コールパーク、コールパーク復帰、会議、ミーティング会議だった場合、あるいは任意のアプリケーションによる分割または参加の操作だった場合、拡張された即時転送では、着信側の電話画面にボイスメール メールボックスの選択肢が表示されません。その代わりに、着信側に関連付けられたボイスメール メールボックスにコールがただちに転送されます。
- QSIG トランク経由で即時転送が許可されている場合は、次のガイドラインに従います。ボイスメール システムと QSIG を統合している場合は、ボイスメール パイロットまたはボイスメール マスクのいずれかまたは両方を含むボイスメール プロファイルでは、[これをシステムのデフォルトボイスメール プロファイルに設定 (Make this the default Voice Mail Profile for the System)] チェックボックスをオフのままにします。デフォルトの [ボイスメール プロファイル] は、常に [ボイスメールなし] に設定してください。

即時転送のインストールとアクティブ化

システム機能の即時転送は、Cisco Unified CallManager ソフトウェアに標準で備わっています。即時転送は、特にインストールする必要はありません。

即時転送の設定

この項の内容は次のとおりです。

- 即時転送の設定チェックリスト (P.12-10)
- 即時転送用のサービスパラメータの設定 (P.12-11)


即時転送の設定チェックリスト

表 12-1 に、即時転送を設定するためのチェックリストを示します。

表 12-1 即時転送の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 クラスタ全体のサービスパラメータ Call Park Display Timer のデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	即時転送用のサービスパラメータの設定 (P.12-11)
ステップ 2 クラスタ全体のサービスパラメータ Use Legacy Immediate Divert のデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	即時転送用のサービスパラメータの設定 (P.12-11)
ステップ 3 クラスタ全体のサービスパラメータ Allow QSIG During iDivert のデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	即時転送用のサービスパラメータの設定 (P.12-11)
ステップ 4 iDivert User Response Timer サービスパラメータのデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	即時転送用のサービスパラメータの設定 (P.12-11)
ステップ 5 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウを使用して、即時転送にアクセスする各ユーザにボイスメールプロファイルを関連付けます。  (注) この手順は、ボイスメールプロファイルとパイロットが設定されていることを想定しています。「ボイスメールプロファイルの設定」および「ボイスメールパイロット番号の設定」を参照してください。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定」
ステップ 6 Standard User または Standard Feature ソフトキーテンプレートに Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを割り当てます。オンフック、接続時、保留、および呼び出しの状態ですoftキーを割り当てます。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキーテンプレートの設定」

表 12-1 即時転送の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 7 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、即時転送を利用する各デバイスに、Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを追加した Standard User または Standard Feature ソフトキー テンプレートを割り当てます。  ヒント 多数のユーザが [即転送] ソフトキーを使用できるようにするには、ソフトキー テンプレートに Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを設定し、デバイス プールにそのソフトキー テンプレートを割り当て、即転送を必要とするすべてのユーザにそのデバイス プールを割り当てます。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 8 即時転送機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone で即時転送機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

即時転送用のサービス パラメータの設定

即時転送機能の動作は、各サービス パラメータの設定によって異なります。即時転送機能に影響を与えるサービス パラメータについて、次に説明します。

クラスタ全体のサービス パラメータ Call Park Display Timer

即時転送は、Cisco Unified CallManager のクラスタ全体のサービス パラメータ Call Park Display Timer を使用します。このサービス パラメータのデフォルトは 10 秒です。IP Phone で即時転送テキスト表示のタイマーを制御するには、Call Park Display Timer サービス パラメータを使用します。このサービス パラメータが変更されると、即時転送のテキスト表示タイマーも変更されます。このタイマーは、Cisco CallManager サービスと即時転送が設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。

テキスト表示については、[P.12-5 の「即時転送の電話機表示メッセージ」](#)を参照してください。

クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert

即時転送では、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されている場合に限り、元の着信側のボイスメールボックスまたは即時転送機能呼び出したユーザのボイスメールボックスのいずれかに着信コールを転送できます。Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが [True] に設定されている場合、即時転送機能呼び出したユーザは、着信コールを自分のボイスメールボックスだけに転送できます。

クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert を [False] に設定すると、QSIG 経由で到達するボイスメール システムにアクセスできます。

クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert

クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert が [True] に設定されている場合、即時転送は QSIG、SIP、および QSIG 対応 H.323 デバイス経由で到達可能なボイスメール システムにコールを転送します。

Immediate Divert User Response Timer サービス パラメータ

Immediate Divert User Response Timer サービス パラメータの値によって、コールの転送先を選択するために [即転送] ソフトキーの呼び出し側が使用できる時間が決まります。呼び出し側が宛先を選択しない場合、コールは接続状態のままになります。

その他の情報

その他のシスコ マニュアル

- Cisco Unified IP Phone の管理資料 (Cisco Unified CallManager 用)
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料

追加情報

P.12-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco ボイスメールパイロットの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ボイスメール プロファイルの設定」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco Unified CallManager への接続性」